



学 会 通 信

第 85 号

2018 年 1 月 19 日発行

目次

2017 年度 第 24 回日本教育メディア学会年次大会お礼	2
第 2 回研究委員会 研究会のご案内	4
第 2 回企画委員会 研究会（ワークショップ）のご案内	5
第 1 回研究委員会 研究会報告	6
理事会（定例）議事録（抄）	7
定例総会議事録	9
論文投稿のご案内	11
学会費納入のお願い、入会者・退会者	12

2017年度 第24回日本教育メディア学会年次大会お礼

2017年度 第24回日本教育メディア学会年次大会の御礼

大会実行委員長 村野井 均（茨城大学）

第24回日本教育メディア学会年次大会は、2017年10月14日（土）・15日（日）に、茨城大学水戸キャンパスで開催され、約150名の方々の参加を得て、無事に終了することができました。

本大会では、独自企画として、2020年度より完全実施される新学習指導要領を見越して、小学校プログラミング教育の公開授業（授業者：清水匠、茨城大学教育学部附属小学校）を実施しました。公開授業は、学会関係者だけに留まらず、県内外より多くの教員・教育委員会関係者に参観していただきました。授業終了後の協議においても、活発な議論が行われました。



また、課題研究として「アクティブ・ラーニングの実践と評価」「グローバル時代におけるメディア活用」「授業・学習を再定義する教育メディア」「メディア・リテラシー教育の新しい展開」の4つのテーマを設定し、15件の発表がありました。

一般発表においては、タブレット端末をはじめとしたICTを活用した教育実践に関する研究、情報教育やメディア・リテラシー教育に関する研究、教職大学院における現職教員に対する教育に関する研究、国際協働学習に関する研究など、教育メディア研究に関する最新のテーマについて、31件の研究発表がありました。本年次大会においても昨年度同様に発表時間20分とし、研究内容を丁寧に報告する時間を確保することを心がけました。その甲斐も有り、各分科会ともに活発な議論が行われていました。



さらに、本大会ではテーマの異なるシンポジウムを2つ実施しました。1日目に実施したシンポジウムⅠでは、「授業実践における教育メディアの役割」というテーマのもと、学会長である黒上晴夫（関西大学）先生のコーディネートにより、教育行政（国レベル・地域レベル）・教育実践・教育研究といったさまざまな立場から活発な議論が行われました。2日目に実施したシンポジウムⅡでは、「学校放送番組とメディア・リテラシー」というテーマのもと、中橋雄（武蔵大学）先生のコーディネートにより、学校放送番組がメディア・リテラシーの育成にどのように寄与してきたか考察するとともに、今後のあり方についての議論が交わされました。

本大会では、一昨年度より試みてきた発表予稿集を冊子にせず、PDFファイルによる配布を行いました。昨年度のようにリンクを張ることができなかったため、閲覧に不便を感じられたかもしれません。また、現職教員の参加を促すこと、学会員を広く募集することの意味合いもあり、本大会においても昨年度同様に非会員の現職教員（幼・保・小・中・高）については、大会参加費を無料としました。それにより、多くの現職教員が公開授業をはじめとして、各種プログラムに参加していました。

最後に、大会運営として宿泊場所が確保できず、多くの参加者の方にはご迷惑をおかけしました。心よりお詫び申し上げますとともに、皆様の温かいご支援とご協力により、何とか無事に終えられたことを改めて感謝申し上げます。また、本大会は、大会企画委員の中川一史委員長、中橋雄副委員長、大会実行委員の石川勝博先生（常盤大学）、小林祐紀先生（茨城大学）、茨城大学教育学部附属小の教職員・児童・保護者ほか多くの皆様の協力で行うことができましたことを申し添えます。今後の本学会の益々の発展を祈念しつつ、次期年次大会開催の鹿児島大学にバトンを渡したいと思えます。

第 2 回研究委員会 研究会のご案内

日本教育メディア学会 2017 年度第 2 回研究会のお知らせと発表の募集

研究会テーマ「ICT を活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価/一般」

国内研究会担当委員長:稲垣忠/東北学院大学

本企画担当:梅田恭子/愛知教育大学

学習指導要領の改訂では、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を実現するための視点に立った授業改善が求められています。また、それらの学びの過程で ICT を活用することも効果的であるとされています。

そこで今回は、ICT を活用したアクティブ・ラーニングの実践や、実践を支援するための取り組み、またその評価を対象とした発表を募集します。その他、本学会がテーマとする内容に関する研究についての発表も募集します。

*日本教育工学会(JSET)研究会「プログラミング教育・LA/一般」と並行開催(同じ建物の別教室で開催)します。受付・研究報告集の購入は個別ですが、双方の研究会に参加できます。

- ・日時 2018 年 3 月 3 日(土)10:00～(発表件数により開催時間は変わります。)
- ・会場 創価大学 中央教育棟 <https://www.soka.ac.jp/access/>
- ・参加費 資料代 1,000 円

■ 発表の申し込み 本研究会は学会員、非学会員問わず発表することができます。

下記の URL 上の Web 申し込みフォームより、発表申し込みをよろしくお願いいたします。

- ・発表申し込み(タイトルと著者名のみ):2018 年 1 月 22 日(日)まで
- ・原稿提出(メールにて提出):2018 年 2 月 12 日(月)まで

※1 原稿の形式・テンプレートは研究会 Web サイトをご参照ください。

※2 プログラム編成の都合上、同日の教育工学会研究会と本研究会の両方に第一発表者として登録することはできません。連名は可能です。また、両方の研究会に参加することはできます。

■ 参加の申し込み 本研究会は発表をしない参加も受け付けております。発表と同様に以下の申し込みフォームをご利用いただき、「発表しない」にチェックを入れて下さい。懇親会へご参加いただくことも歓迎します。

研究会 Web サイト : <http://jaems.jp/meeting/>

第2回企画委員会 研究会（ワークショップ）のご案内

テーマ「今だからこそ！日本の英語教育を考える」

企画委員会担当 佐藤 幸江（金沢星稷大学）

企画担当 村川弘城（日本福祉大学） 小林祐紀（茨城大学）

2011年より小学校において「外国語活動」が全面実施され、様々な課題を抱えながらも、全国の学校で実施されています。そんな中、2020年からは教科としての「英語」が実施され、2018年度からは段階的な実施が計画されているようです。もちろんその計画内では、ICTやメディアとの関わり方についても検討していく必要があります。小学校の教科英語元年に向けた準備期間である今だからこそ、これからの日本の英語教育について考えるべきではないでしょうか。本ワークショップでは、国の政策、特区の現状と課題、小中接続のそれぞれに造詣の深い方を講師として呼びいたします。これからの日本の英語教育について一緒に考えましょう。

■日時 2018年1月28日（日）13:00～16:00

■会場 パナソニックセンター 会議室

〒135-0063 東京都江東区有明3丁目5番1号

■会場へのアクセス

りんかい線「国際展示場駅」徒歩2分

新交通ゆりかもめ「有明駅」徒歩3分

<https://www.panasonic.com/jp/corporate/center/tokyo/access.html>

■参加費 無料

■内容及びタイムスケジュール

- ・受付 12:45～
- ・13:00～13:05 開会のあいさつ
- ・13:05～13:20 本企画の趣旨説明
- ・13:20～14:50 話題提供

<話題提供者>

池田勝久（文部科学省教科書調査官／国の教育行政）

清水和久（金沢星稷大学／特区の実態と課題）

反田任（同志社中学校・高等学校／小学校との接続）

- ・14:50～15:00 休憩
- ・15:00～15:40 グループディスカッション
- ・15:40～15:55 シェアタイム
- ・15:55～16:00 閉会のあいさつ

■申し込み

以下のURL、もしくは右のQRコードを読み取っていただき、申し込みをお願いいたします。

<https://goo.gl/forms/Tbml8rmbh54bPME82>



第1回研究委員会 研究会報告

2017年7月15日(土)、石川県の金沢星稜大学におきまして、2017年度の第1回研究会を開催いたしました。今回は昨年と同様に企画委員会と合同で企画し、午前中に企画委員会のワークショップ、午後に研究会を開催いたしました。大学教員のみならず、学校教員、教育関連企業等より幅広くご参加いただき、合計で9件の研究発表が行われました。

今回の研究会のテーマは「次期学習指導要領に対応する教育と小中高大接続／一般」でありました。これは、午前中のワークショップと共通性をもたせたテーマで、小学校を皮切りに来年度から順次、移行措置がはじまる学習指導要領を踏まえ、すべての教育機関における新しい指導のあり方や、接続教育の研究などについてのご発表を想定したものでした。



今回ご発表頂きました研究は各教育機関での教育実践として、幼児教育から高等教育まで幅広い対象者での主体性・思考力・判断力・表現力の涵養を想定した事例でした。参加者は決して多いとは言えませんが、幅広いテーマの発表があり、様々な視点での見解を得られる刺激的な時間となりました。参加者・発表者の皆様におかれましても、研究の今後に役立つ有意義な時間になっていたら幸いに思います。



改めて、本研究会にご参加いただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。

(文責：大阪大学 井ノ上憲司)

理事会（定例）議事録（抄）

第8期 第5回理事会 議事録

[日 時] 2017年10月13日（金）15:00-16:15

[場 所] 茨城大学水戸キャンパス 図書館3階セミナールーム

[出 欠] 会長、理事15名、委任状（議長に委任）7名、監事1名

会長 黒上晴夫

理事 出席：浅井和行、宇治橋祐之、浦野弘、岸磨貴子、後藤康志、佐藤慎一、佐藤幸江、

鈴木克明、寺嶋浩介、中川一史、中橋 雄、長谷川透、堀田博史、村野井 均、林向達

欠席（うち7名の議長への委任状を確認）：稲垣 忠、小柳和喜雄、影戸 誠、久保田賢一、小林祐紀、鄭 仁星、永田智子、堀田龍也、村上正行、渡辺雄貴

監事 出席：生田孝至、欠席：佐々木輝美

■審議事項

（1）入会者・退会者について（事務局）

事務局長から、前回理事会以降の入会者・退会者・除籍者について説明があり、審議の結果承認された。また、団体会員の規定を設ける旨の提案があり、審議の結果承認された。

（2）日本教育メディア学会論文賞選考委員会内規および対象論文について（事務局）

事務局長から、日本教育メディア学会論文賞選考委員会内規について提案があり、承認された。

2018年度以降の論文賞の受賞対象論文について、投稿時に筆頭著者が学会員を条件とすることが確認された。

その上で、2017年度対象論文については当該年度以内に学会員となれば受賞対象の条件にすることが承認された。

（3）今後の選挙について（事務局）

事務局長から、次年度の選挙について報告された。まず宇治橋副会長、中川理事、中橋理事が担当し、選挙管理委員会を立ち上げることが確認された。

また、今後の選挙プロセスについて確認された。

（4）新規理事について（事務局）

年次大会委員長より、次年度は2018年11月24、25日に鹿児島大学で開催の報告および理事委嘱について審議され、承認された。

■ 報告事項

(1) 論文賞について (論文賞選考委員会)

論文賞選考委員会副委員長より、2017 年論文賞は「平和教育実践における全天球パノラマ VR 教材の効果的な活用に関する検討」(瀬戸崎典夫・佐藤和紀) とする報告があった。

(2) NII-ELS の終了に伴う J-Stage への移行について (事務局)

事務局長より J-Stage への移行完了の報告と、今後の運営について報告があった。

(3) 論文誌編集状況とサイトへの登録について (編集委員会 (国際))

編集委員会 (国際) 副委員長より、論文誌編集状況とサイトへの登録について IJEMT の論文誌 Vol111、12 を発行予定で報告があるという報告があった。また J-Stage と Scopus への登録を審議し、承認された。今後本学会のサーバで査読システムを運営することが検討されることになった。

(4) 次回、企画ワークショップについて (企画委員会)

企画委員会委員長より 2017 年 7 月 15 日 (土) 金沢星稜大学で開催されたワークショップ「次期学習指導要領を見据えた授業づくり」について報告 (42 名参加) があった。また、第 2 回企画委員会企画ワークショップは 2018 年 2 月を予定していることについて報告があった。

(5) 国際学会について (研究委員会 (国際))

研究委員会 (国際) 副委員長より 2017 年度 8 月 2 日から 4 日ハワイ大学での ICoME の実施報告があった。加えて、2018 年度は韓国ソウルで 2018 年 8 月 16 日から 18 日を中心に予定を調整するという報告があった。また、国際会議 11th International Conference on Blended Learning 2018、4th International Symposium on Educational Technology 2018 の共催依頼がありこれを承認した。

(6) 次回、研究会について (研究委員会 (国内))

研究委員会 (国内) 副委員長より 2018 年 3 月の研究会を担当者の都合により尚美学園大学から創価大学に変更 (JSET と共催の研究会を開催予定) するという報告があった。

(7) 査読状況について (編集委員会)

編集委員会 (国内) 委員長より査読状況の報告がなされた。また、投稿規定とテンプレート書式の異なりについて修正予定であることが報告された。

(8) 総会資料について (事務局)

事務局長より翌日に行われる総会資料について配布され、審議・報告事項の説明があった。

(9) その他

- ・年次大会委員長より、地元企画 大会 1 日目午前・公開授業について連絡があった。
- ・監事より予算に関して理事会に対する依頼があった。
- ・次回の理事会は、次回、理事会は 2018 年 4 月 21 日 (土) 13:00 から 16:00 を予定に、東京および大阪各会場を遠隔で接続し開催する予定となった。

以上

定例総会議事録

1. 日時：2017年10月14日（土）12:30-13:20

2. 場所：茨城大学 茨苑会館

3. 内容

議事に先立ち、事務局長から、有効な委任状が67通と議決権行使（議案への賛成）が5通、電子総会システムより提出され、出席者が32名のため、学会会則第44条に従って2017年度定例総会が成立していることが報告された。また、会場校を代表して村野井大会実行委員長より挨拶があった。

（1）議案

第1号議案 2016年度事業報告及び収支決算承認の件

事務局長から資料に基づいて、2016年度事業経過及び結果（機関誌発行、第23回年次大会の開催、学術交流等：研究会、ICoME2016、ワークショップの開催等）についてそれぞれ説明があった。監事から通帳、会計書類等適正に処理、保管されていることが報告され、審議の結果、2016年度収支決算（案）が異議無く承認された。

第2号議案 2017年度事業計画および収支予算承認の件

事務局長から資料に基づいて、2017年度事業計画（機関誌発行、第24回年次大会の開催、学術交流等：研究会、ICoME2017、ワークショップの開催、電子選挙化に向けた準備等）についてそれぞれ説明があった。審議の結果、2017年度収支予算（案）が異議無く承認された。

第3号議案 日本教育メディア学会論文賞の創設について

昨年度をもって日本教育メディア学会の論文賞として設けられていた井内賞が終了となるため、2016年度の総会にて新たに研究を奨励するための賞を創設することが承認されていた。その後理事会にて、①「日本教育メディア学会論文賞」を創設すること、さらにその条件として②優秀な論文に対して賞を与えるが、その筆頭著者は学会員であることを条件とすること、③賞金を5万円とすること、が提案され、審議の結果、異議なく承認された。

第4号議案 日本教育メディア学会理事選挙規定の改正について

投票手続きを簡便化し、理事会選挙等投票率を向上させるために電子投票を導入することが理事会にて検討されてきた。これまでの理事選挙規定では、郵送による投票を前提としているため、電子投票に合わせた規定の改正が提案され、審議の結果、異議なく承認された。

（2）報告事項

①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告

日本教育メディア学会論文賞選考委員会副委員長より「日本教育メディア学会論文」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

受賞者名：瀬戸崎典夫・佐藤和紀

論文名：平和教育実践における全天球パノラマVR教材の効果的な活用に関する検討

掲載論文誌：教育メディア研究 第23巻第2号（研究論文）

②『教育メディア研究』投稿募集の件

編集委員会（国内ジャーナル）委員長から『教育メディア研究』の編集状況の報告と論文募集の案内があった。

③2018年度年次大会の件

年次大会委員会委員長から次年度の年次大会を2018年11月24日（土）・25日（日）に鹿児島大学で開催する計画について報告がなされた。

④その他

◎研究委員会（国内）の件

研究委員会（国内）副委員長から2017年度第2回研究会（3月3日（土）@創価大学）の計画について報告がなされた。

◎研究委員会（国際）の件

研究委員会（国際）副委員長より、ICoME2017が2017年8月2日から8月4日（金）にハワイ大学マノア校にて開催されたことが報告された。次年度は韓国・ソウル近郊にて、2018年8月16日から18日ごろ（正式には未定）に開催される予定となっている。詳細については、今後学会通信およびメーリングリストにて案内される。

以上

論文投稿のご案内

編集委員会（委員長／鈴木克明：熊本大学）

■『教育メディア研究』特集号 「これからの教育メディア」（Vol. 25, No. 1）

初等中等教育では学習指導要領の改訂により、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力の育成、社会に開かれた教育課程の重視、「主体的・対話的で深い学び」の充実、情報活用能力の育成、プログラミング教育など、高等教育においてもFDやアクティブ・ラーニングの推進など、教育界では多様な課題が示されています。教育メディアはこれら今後の教育課題にどのように関わり、貢献することができるのでしょうか。本特集号ではこれからの教育メディア研究に資する論文を募集します。理論研究や実践研究、調査研究など幅広い投稿を期待しています。

締切 2018年5月7日（月）

また、同時に一般論文も広く募集いたします。一般論文は随時受け付けています。
多くの会員からの投稿を期待しています。

学会費納入のお願い、入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

< 納入のお願い >

2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

< 送金先 >

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨシイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（4名）・・・明見 佳子、片岡 義順、時津 啓、石田 年保

新入会員・学生会員（1名）・・・安里 基子

退会者 ・正会員（2名）・・・大河原 清、大西 誠

会員総数 361名・17団体

名誉会員：3名

正会員：318名

学生会員：40名

団体会員：6団体

購読会員：11団体

（平成29年12月27日現在）

日本教育メディア学会 事務局

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 後藤康志 (新潟大学)

副委員長 渡辺 雄貴 (東京工業大学)

委員 岩崎千晶 (関西大学)

井ノ上憲司 (大阪大学)

遠海友紀 (京都外国語大学)